

第二項 魚雷檢定發射ニ關スル法規

明治四十一年魚雷發射規則ノ改定ニ伴ヒ同規則第九條魚形水雷發射區別中新ニ檢定發射ノ制ヲ設ケ之ガ實施ニ關スル規定ハ毎年之ヲ告達スルコトトナリシガ大正五年ニ及ビ實施ニ關スル規定ノ告達ハ單ニ(一)魚形水雷發射施行區分表中ニ於テ艦艇種及魚雷制式別ノ射程標準ヲ掲記スルト(二)艦艇種、魚雷及發射機別ニ檢定發射成績種別ヲ定ムベキ(毎年告達)コトノミニ止メ檢定發射ハ戰鬪發射施行以前ニ於テ射程標準ニテ施行シタル基本教練發射ノ成績ヲ審査シ所屬長官之ガ成績順序ヲ定ルコトトナリシガ越ヘテ六年魚雷發射規則一部ノ改定ニ依リ發射檢定ノ名目ヲ設ケ之ガ目的ヲ指シ併セテ檢定發射ノ定義ヲ與フ又檢定發射ノ實施方法ハ所屬長官之ヲ定ムルコトトセリ

(檢定發射ハ主トシテ發射檢定ノ爲ニ施行スル發射ヲ謂フ、發射檢定ハ射手及發射機員ノ伎倆檢定ヲ目的トス)

大正八年檢定發射ハ艦長(司令)之ヲ施行スルコトトシ尙本發射ハ指示射程標準ニテ施行セル基本教練發射ノ全部又ハ一部ヲ以テ之ニ充ツルコトト定ム

大正九年ニ入り魚雷發射規則中ノ發射區別中ヨリ全然檢定發射ヲ削除スルニ至レリ蓋シ大正五年以來殆ド發射檢定ノ手段タル檢定發射ノ計畫實施ハ殆ド實施部隊側ニ移サレタルノミナラズ發射檢定ノ遂行上特ニ檢定發射ナル發射種別ヲ存置スルノ要無キヲ以テナリ左ニ第一回(明治四十一年)魚形水雷檢定發射實施規定(四十一年內令第九十號)ヲ摘録シ參考ニ供ス

明治四十一年魚形水雷檢定發射實施規程摘要

- 第一條 射場ノ設備ハ附圖ニ示スガ如シ 但シ標的ハ成ルベク流潮ノ方向ト直角ニ設置スルヲ要ス
- 第二條 檢定發射ニ於ケル最近射程ヲ左表ノ通定ム

艦艇種	保式十八吋	保式十四吋	露	式	朱	式
軍艦	一五〇〇米	一〇〇〇米	一〇〇〇米	五〇〇米	五〇〇米	五〇〇米
驅逐艦	八〇〇米		五〇〇米			
水雷艇		五〇〇米				五〇〇米

- 第三條 所屬長官ハ檢定發射施行中發射艦艇ニ在テ發射ノ實施ニ關シ全般ノ監督ヲナスヲ例トス
- 第四條 檢定發射ニ於テハ左ノ如ク委員ヲ配置スルヲ例トス
- 一、艦艇運動ノ監督 二、發射ニ關シ要スル時間ノ測定 三、發射管側ノ監督 四、監的 五、水雷採收及其航跡監視
- 第五條 檢定發射ニ於テハ發射諸元ノ號令及發射中危險ヲ防止シ又ハ兵器ノ毀損ヲ制スル等ノ外、發射管員ニ對シ發射ニ關スル一切ノ助言補助等ヲ與フベカラズ
- 第六條 發射艦艇發射區域内ニ達スル前艦艇長ハ號音若ハ號令ヲ以テ「氣ヲ附テ」令シ關係諸員ハ其ノ配置ニ就キ發射順ニ在ル

發射管具ハ發射準備ヲナスモノトス

第七條 檢定發射ニ於テ旋回發射管ノ旋回角度ハ任意トス又艦艇首尾ノ固定發射管ニ在リテハ軍艦ハ八節驅逐艦水雷艇ハ十節ニテ發射スルモノトス

第八條 艦艇長ハ發射位置ニ達スル給前ニ於テ發射開始ヲ令スベキモノトス

第九條 魚形水雷ハ左記順序ニ依リ規定數ヲ發射スルモノトス

第一回ハ裝氣調整及裝填終リタルモノヲ用ヒ第二回ハ豫備水雷ヲ第三回採取シタルモノヲ使用スルモノトス
但シ第一回以後發射準備ニ要スル時間ハ毎回二時間以内トス

第十條 發射管具ハ其ノ固有ノ發射管ニ就キ艦艇ニ於テ當該發射管用トシテ定メタル魚形水雷ヲ發射スルモノトス
修理又ハ故障等ノ爲前項當該發射管用魚形水雷ヲ使用シ能ハザル場合ニハ委員ノ指示ヲ受ケ他ノ水雷ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 二時間以内ニ發射準備ヲ終ラザルカ又ハ發射ヲ指定セラレタル發射管ニシテ故障不發等ノ爲一航過中ニ發射シ能ハザルモノハ其ノ發射終レルモノト見做シ次回ノ發射ニ移ラシム 但シ故障又ハ不發等ノ原因明カニ發射艦艇ノ不注意ニ屬セザルモノト認メタルトキハ此限ニアラズ

第十二條 左ノ場合ニ於テ發射中止ヲ命ジタルトキハ更ニ開始セシムルモノトス

一、危險ノ虞アルトキ 二、標的ニ故障ヲ生ジタルトキ 三、其他必要ト認ムルトキ

第十三條 發射ノ成績ハ綿製網ニ命中シタル痕跡ノ位置ニ應ジ左ノ區分ニ依リ附與シタル點數ヲ以テ算スルモノトス

痕跡位置	點數		
	遠距離射程	近距離射程	同上器ヲ有セザルモノ
中心ヨリ左右十米間	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十米二十米間	九五	九〇	九五

二十米三十米間	九〇	七五	九〇
三十米四十米間	七五	五〇	七五
四十米五十米間	五〇	一〇	五〇

(備考) 命中スルモ調整距離ニ於テ停止浮出セズ異狀ヲ呈シタルトキハ其ノ得點ヲ半減ス

第十四條 成績ノ順序ハ軍艦(水中及水上發射管ヲ區別ス)驅逐艦、水雷艇トニ別レ各種水雷ニ就キ左ノ各號ニ依リ之ヲ定ム

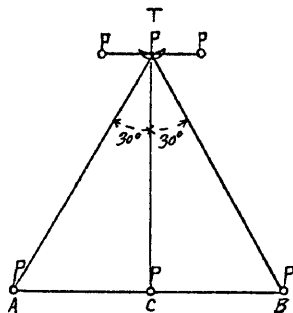
一、總得點數ノ多寡

二、得點數等シキトキハ命中數多キモノヲ上位トス

三、前各號皆等シキトキハ發射準備ニ要セシ時間即チ第一回發射後ヨリ次回ノ水雷ヲ裝填シ發射準備終ル迄ノ時間及採收シタル水雷ヲ使用シ再ビ發射準備ヲ終ル迄ノ時間ノ和少キモノヲ上位トス

四、發射シタル魚形水雷ノ中失踪又ハ沈没シタルモノアルトキハ其ノ成績順序ハ最下位ニ置クモノトス 但シ最下位ノ者二人以上アルトキハ其ノ得點ノ多キ者ヲ上位トス

(附圖)



一、Tハ標的、ACBハ浮標

但シC浮標ハ便宜設置セザルコトヲ得

一、AB線ハ標的の面ニ平行ニシテTC間ノ距離ハ本規定ニ定メタル最近射程トス

一、發射艦艇ハAB線ノ外方ニ於テ水雷ヲ發射スルヲ要ス 但シ其ノ航路ハAB線ト交叉スルモ妨ゲナシ

一、標的ハ發射管ノ數ニ應ジ適當ノ距離ヲ隔テ二個以上ヲ設備スルコトヲ得 但シ此ノ場合ニ於テハAB間ノ距離モ増大セシムルヲ要ス

檢定發射實施規定(程)ハ爾後毎年改定告達セラレシガ左ニ特ニ前年ト異ル諸點及事由ヲ表記シ參考ニ
供ス

年次	主 要 改 定 諸 點 及 事 由
年 二 十 四	<p>一、魚雷射程一部ヲ改大シ昨年實施ノ結果ニ鑑ミ公平ヲ保テリ</p> <p>二、調整深度ニ關スル事項ヲ加ヘ深度ニ對シテモ減點ノ制ヲ設ケリ</p> <p>三、每發(回)自己擔任ノ魚雷ヲ使用スル如ク規定シ不斷ノ整備ヲ全カラシムルニ資セリ</p> <p>四、本年ヨリ敷設艇及潜水艇ヲモ發射艇ニ加ヘ之ニ關スル規定ヲ設ク</p> <p>五、魚雷命中發射規則ノ制定ニ伴ヒ概ネ之ニ合致スル如ク全點付與ノ範圍ヲ擴ゲタリ</p>
年 三 十 四	<p>一、艇種及魚雷別射程ヲ部分的ニ延伸シ發射條件ノ一進歩ヲ圖レリ</p> <p>二、潜水艇ノ水面發射ヲ潛航發射ニ改メ其ノ速力四節ヲ標準放電電流ニヨル潛航速力ニ改メ斯術ノ進歩ヲ圖ル</p> <p>三、第一回ノ發射開始後發射機、發射藥、火管、魚雷及縱舵機ニ生セシ故障ハ其ノ原因ノ如何ニ拘ハラズ發射機員ノ責任トシテ打チ直シ等ヲ行ハザルモノトシ實施ノ單簡公正ヲ期セリ</p> <p>四、成績順決定條項中左記ヲ加ヘ判決ニ使ス 前各號皆相等シキトキハ痕跡ノ集中セシモノヲ上位トス</p> <p>五、加熱裝置ヲ有スルモノハ冷氣發射(加熱セシメザル發射)ヲ行ハシム未ダ加熱魚雷ノ取扱ニ慣熟セザル據アルヲ以テナリ</p>
四 十 四	<p>一、射程ヲ一般ニ増加シタルハ加熱附魚雷整備シタルト發射術ノ進歩シタルニヨリ之等條件ヲ向上セシムルノ必要アルニ依ル(本年ヨリ一般的ニ加熱發射ヲ始ム)</p> <p>二、魚雷ノ速力ニ對スル採點法ヲ設ケタルハ動的發射ニ於テ自己魚雷ノ速力ヲ正確ニ知ルノ途足ザルモノアリシト魚雷ノ分解符合等ニ於テ一層ノ注意ヲ喚起セシムル手段ト爲スタメナリ</p>

年 四 正 大	年 三 正 大	年 二 正 大	(年元正大)年五十四	年
<p>二、採點標準中大正三年ノモノニ比シ魚雷散布幅ヲ加味ス之レ二個魚雷ノ集中程度ハ照準手伎倆考査ノ上ニ必要要件ルニ依ル</p> <p>一、檢定發射實施規程中ニハ必要ナル標準ノミヲ示シ細項ハ所屬長官之ヲ定ムルコトトセリ蓋シ本年度檢定發射優勝者ノ褒賞ハ所屬毎ニ區分シ所屬長官其ノ順序ヲ定ムルコトトナルヲ以テ細項ハ長官之ヲ定マルヲ至當ナリト認ムルニ依ル</p>	<p>四、委員ノ指定ヲ減少シタルハ成績調査上其ノ必要ヲ認メザルニ依ル</p> <p>三、軍艦發射ニ於テ標的幅ヲ増加セルハ命中界ヲ擴張シ各自得點ニ大差無カラシムル爲ナリ(二二〇七一五〇及二〇〇トセリ)</p> <p>二、水雷艇及潜水艇ノ發射ニ於テ射程ヲ増加シタルハ教育訓練ノ進歩シタル爲ナリ(水雷艇ノ六〇〇七八〇〇ニ潜水艇ノ五〇〇及六〇〇ヲ六〇〇及八〇〇トセリ)</p> <p>一、軍艦ノ射程ヲ二種ニ區別シ三八式二號魚雷ヲ有スルモノハ從來ノ如ク三千米トシ二十一吋魚雷及四三式十八吋魚雷ヲ有スルモノノ射程ヲ四千米ニ増加セリ第一艦隊ノ各艦ニ於ケル發射成績及水雷學校ノ實驗發射ノ成績ニ由ルモ四千米ニ増加シテ差支無キニヨル</p>	<p>二、標的ノ幅ヲ一定スル爲潜水艇ノ射程ヲ變更シタルコト</p> <p>一、敷設艇ハ其ノ魚雷ノ性能現在敷及戰時ニ於ケル敷設艇ノ行動能力ニ鑑ミ必要ヲ認メザルニ由リ削除ス</p>	<p>三、操舵員ニモ褒賞ニ與カラシメ得ル如ク規定ス是レ操舵ノ巧拙ガ魚雷ノ命否ニ影響スル處頗ル大殊ニ艦艇首尾發射管發射ニ於テ然ルニヨル</p> <p>二、檢定發射ノ施行回数ヲ一發射機毎ニ二回ニ改メタル結果之ニ伴フ改正ヲ行フ、從來ノ採收魚雷ヲ以テ更ニ第三回ノ發射ヲ爲サシムルハ意義ヲ爲サザルガ爲ナリ</p> <p>一、露式及二六式ヲ除キ尙軍艦ニ於テ加熱裝置ヲ有セザル保式十八吋魚雷及百氣艇以下ノモノノ發射ヲ施行セザルコトトス、新引換ノ爲必要ナキニヨル</p>	<p>潜水艇ニ對シ本制度ヲ採用セザリシハ教練發射ニ於テ距離速力ノ測定法意ノ如クナラザルモノアルト訓練ノ程度他ニ比シ未ダ及バザルモノアルニ由ル</p>

ナリト認ムルニ依ル

以 降

- 一、大正五年ヨリハ實施規程ヲ發布セズ發射區分表ニ依リ單ニ基礎的要件ニ、三ヲ示シ他ハ一切所屬長官ノ定ムル所ニ依ルコトナレリ
- 一、大正九年ヨリ「檢定發射」ナル名目ヲ廢シ大正六年制定ノ發射檢定ニ實質ヲ代フ

左記ハ中央發令最終實施規程タル大正四年魚形水雷檢定發射實施規程中成績審查決定ニ關スル條項ナリ參考ニ資ス

- 一、發射ノ成績ハ綿製網ニ命中セルモノニ就キ其ノ痕跡ノ位置、雷速誤測量及魚雷ノ散布幅ヲ基礎トシ別表ノ標準ニ依リ左ノ如ク種別シ所屬長官其ノ順序ヲ定ム
 - 一、水中發射管ニテ四四式魚雷ヲ發射スル軍艦
 - 二、水中發射管ニテ四三式魚雷ヲ發射スル軍艦
 - 三、水上發射管ニテ四四式魚雷ヲ發射スル軍艦
 - 四、右以外ノ軍艦及一、二等驅逐艦
 - 五、三等驅逐艦及一等水雷艇
 - 六、二等水雷艇
 - 七、潜水艇

